

# 「二世帯で住む、巨木の住処」

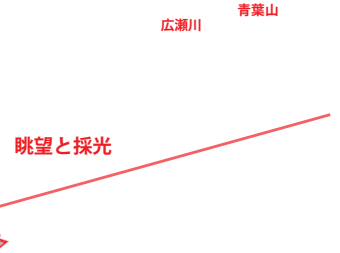
Ginga architects  
武田 幸司



斜線制限に合わせた変形屋根と大胆な跳ね出しが印象的な外観。跳ね出しの下はガレージになっている。南側には2階建ての住宅があり、自由たがり敷地。



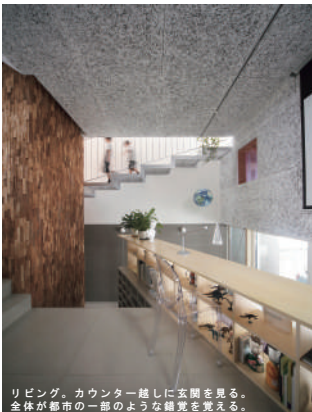
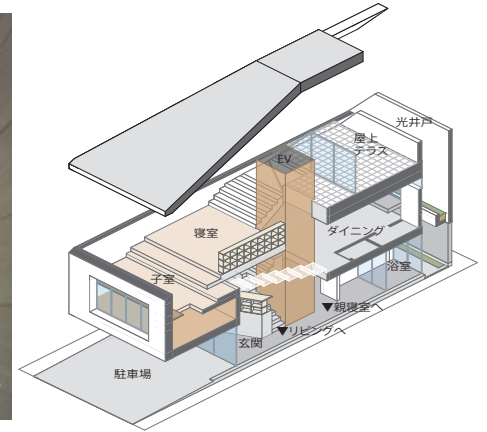
屋上テラスからの眺望。青葉山の緑帯を見ながら、夏には仙台七夕祭が眺められる。EVでアクセスできる。



跳ね出して生まれた軒先部分に駐車場になっている。



玄関から水回り方向を見る。ハイサイドからの自然光がパンチングメタルの階段を透過して1階まで降りてくる。奥の水回りは光井戸の中庭に繋がる。



リビング。カウンター越しに玄関を見る。全体が都市の一部のような錯覚を覚える。



本館→リビング→ダイニングキッチンと、巨木に見立てたエレベーター室のように大きなフロアが連続する。各所に設置する小さな階段も家全体の表情となっている。前面道路を引き込み、道のようなパブリックな空間となっている。



一家が集うダイニングキッチン。大きな窓がありながらも、外の視線が気にならないくつろげる居間の場になっている。エレベーターの奥り降りもしやすい。



光井戸に面して設置されたオーダーメイドのキッチン。大きな窓の外にはプランター植栽の緑が風に揺れる。



リビング。壁りごたつのような肌触りに前面道路が見える。塔屋への階段。斜め天井を開き振り上げて屋上へ至る。子世帯の寝室に繋がる階段は、パブリック空間から種々の跳ね出し部分、サブリビングの床下に設けた子供室。斜め天井の配天灯をもつ2階の子世帯、子供室、夜室、屋上テラスが、プライベート空間に切り替わるアプローチになっている。目の届かないプライベートな空間に仕切ること多量な移動している。



## 設計趣旨

仙台市中心部、細い私道に接する立込狭小敷地に建つ3層構造の二世帯住宅である。私道に接し、間口が狭く周りを2階建て住宅に囲まれた、仙台市都市部で典型的な密集住宅地である。南側に住宅が接近し、一般的な2階建て住宅では十分な採光や通風が見込めないことが予想された。2階屋根レベルまで上がることで、仙台の花火や青葉山の緑帯が見渡せる眺望が開けることが解っていたので、3層に屋上テラスがある建物であること、二世帯同居の車椅子のご両親のバリアフリーへの配慮が求められた。

外観は、基壇の上に、斜線制限から生まれた変形した屋根の建物が跳ね出して置かれたようなシンプルで特徴的な形をしている。跳ね出して生まれた軒先部分は駐車場になっている。狭小地のため、一階に駐車場と両親の空間を配置すると、必然的に2階に団樂のLDKが計画され、車椅子での移動にはEVが必要になった。そこで、2階建て+塔屋の3層構造とし、中心に巨木の幹のようなEVコアを設けて、巨木を中心に様々な場所が点在する螺旋状の空間とし、EVでも屋上テラスまで上られる立体的な住宅とした。下階（親世帯）と上階（子世帯）それぞれの世帯の距離感を取るために、中間階にみんなの団樂のLDK空間を緩衝帯として配置している。

ハイサイドライトがある階段室の大きな吹き抜けや、敷地の奥にプライベートな光井戸を設けることで、光を下階まで届けるようにしている。前面道路を引き込みながら、駐車場→玄関→リビング→ダイニング→光井戸が、床や天井の素材を巻き込みながら段々に連続し、道のようなパブリックな空間となっている。特徴的な勾配天井をもつ2階の空間は、子供室→寝室→屋上テラスが天井勾配に沿って段々に連続し、プライベートな落ち着いた空間が空に繋がる。全体がスキップ状でありながらも、エレベーターがあることで、1階、2階、屋上テラスに車椅子でいくこともできる。

自分のお気に入りの場所で過ごす時間の存在が、「同居」という、一つ屋根の下で家族と一緒に暮らす時間の大切さを感じるよう考えます。圧迫感のある狭小敷地の住宅でありながら、巨木を中心に奥行きや抜けがあり、光を求めて移動することで、それぞれが様々な居心地の良い場所を見つけ過ごすことができる、明るく広がりのある新しい二世帯住宅のカタチとなった。

建築概要	
[建物名称]	二世帯で住む、巨木の住処
[用途]	個人住宅
[所在地]	宮城県仙台市青葉区
[設計監理]	Ginga architects
[担当]	武田 幸司
[施工]	株式会社 絆建築
[設計期間]	2019年1月～2019年9月
[工事期間]	2019年10月～2020年4月
[規模]	構造 木造
	階数 地上2階+塔屋
	敷地面積 124.17㎡
	建築面積 74.49㎡
	延床面積 130.02㎡